

「第 31 回林間学校」に参加しました

国立研究開発法人 森林研究・整備機構
森林整備センター 高知水源林整備事務所

高知水源林整備事務所（高知県高知市）は、令和 2 年 2 月 14 日(金)に高知県幡多郡黒潮町で開催された「第 31 回林間学校」に参加しました。



紙芝居

この催しは、森林への理解を深めてもらうことを目的として、黒潮町を管轄している幡東森林組合が地元の小学生を対象として毎年開催しているもので、当事務所は今年で 20 回目の参加となります。

今回は小学生 42 名が参加し、高知水源林整備事務所と高知水源林育成士会、四万十森林管理署、及び幡多林業事務所が協賛しました。当初は黒潮町の土佐湾沿岸に位置する名勝・入野松原でクロマツの植樹体験を行う予定でしたが、当日はあいにくの雨模様だったため、黒潮町林業総合センターで屋内学習を行うこととなりました。

屋内学習では、高知水源林育成士会による森林の働きについての紙芝居や、幡多林業事務所による治山から見た森林の役割の説明、また、幡東森林組合による入野松原の成り立ちやその重要性などについての説明があり、生徒の皆さんは真剣に聞き入っているように見受けられました。

その後、生徒の皆さんには、高知水源林整備事務所と高知水源林育成士会が共同で行うエコバッグ作りと、四万十森林管理署による木の工作に取り組んでもらいました。

エコバッグ作りでは今回の森林教室にちなんで木を描く生徒もおり、そのほかにも黒潮町の名物であるクジラなど、各々が思い思いの絵を描いて楽しんでいる様子でした。



エコバッグ作り

閉会式では、生徒代表から「森林や入野松原の大切さを勉強できた。今回植樹できなかったことはとても残念だが、勉強したことを忘れずに、森林や入野松原を大切にしていきたい。」との言葉があり、参加者にとっても森林とのつながりを持つ良いきっかけになったように見受けられました。

高知水源林整備事務所では、今後も積極的にイベントに参加して地域の方々との交流を深め、森林・林業の大切さや水源林造成事業の P R に取り組んでまいります。